

第2期宮城県特別支援教育将来構想実施計画（前期）の取組状況について②

目 標	誰一人取り残さない学校づくり
事業名	障害児地域教育充実事業（実施計画施策番号15）
実施機関	特別支援教育課
取組内容	○県立特別支援学校の狭隘化対策 ○狭隘化が課題の特別支援学校の在り方検討
取組方針・達成目標	○県立特別支援学校の児童生徒数の増加に伴い、応急的な教室改修及び既存分校施設の突発的な小規模維持修繕に対応していく。 ○県立特別支援学校の児童生徒数の推移や障害等の状況の変化、社会動向等を踏まえながら、各学校の在り方を検討する。
令和7年度取組概要	○松陵支援学校への調理室新設等に関する改修工事や、利府支援学校塩釜校の追加借用教室に関する改修工事等を行う。 ○狭隘化が課題となっている県南地域及び仙台圏域における今後の対策を検討する。

視察事業名	障害児地域教育充実事業【角田支援学校】	視察実施日	令和7年10月28日
意見・感想	<p>（1）本事業の取り組みについて</p> <p>○高等部の教室の生徒数が多いと実感した(10名)。児童生徒が落ち着いて授業に参加するためには一定の面積的なゆとりが必要である。また、気持ちが高ぶったときにクールダウンすることが可能な、落ち着ける部屋も必要である。</p> <p>○現在、全国の特別支援学校は1,195校、1校あたりの平均在籍数は133名で過去最高となっている。特別支援教育の開始年（1,013校）から182校も特別支援学校が増えたにもかかわらず、児童生徒の減少傾向は見られない。また、高等学校の再編整備に伴い、地方部の高校は徐々に特色がなくなっていく傾向にある。(進学に特化した高校、職業教育に特化した高校、中学まで学校になじめなかった生徒を手厚く見守る高校が全て一つの高校に集約される)</p> <p>そうすると、手帳を有する支援が必要な生徒が特別支援学校高等部に来る可能性が高くなり、支援学校のニーズはますます高まる。令和14年を特別支援学校在籍のピークと考えて現状を維持することに不安がある。</p> <p>○インクルーシブ教育システムの構築を掲げるのであれば、地域の学校や高等学校で特別支援学校の受け入れをしていくという発想の転換も必要になってきたのではないかと。</p> <p>市町村教育委員会の就学支援委員会における就学先決定への支援。支援が必要な児童生徒は特別支援学校ではなく、(可能な場合は)地域で受け入れるという就学支援が行えるような、就学支援担当者を育成することが求められている。現状は子どもの実態が22条の3に該当し、保護者が希望するとすぐ特別支援学校へ就学とはなっていないだろうか。</p> <p>○スクールバスの長時間乗車も可能であれば時間を短くしてあげてほしい。</p> <p>○本事業の取組内容が「狭隘化が課題の特別支援学校の在り方検討」とのことだったが、狭隘化以上に老朽化が進んでいることがわかった。今回の視察は秋口であり、昨今の猛暑続きや真冬の寒さは体感できなかったが、各教室にエアコンが完備されていても隙間風等が心配になった。</p> <p>○バリアフリーの観点から言えば、例えば廊下の洗面台の鏡の高さが少々高く見受けられ、利用していた立位の小学生でも鏡を見るのが難しいと感じたがいかがだろうか。</p> <p>○現状の在籍は少数であり、今後顕著な増加予測はないとのことだが、車いす利用者や送迎支援など物理的・人的資源の準備は重要であり、バリアフリー改修やケアルーム等の整備の必要性も感じた。実際、利用させていたバリアフリーストイルについても、当方の手動車椅子でも手狭で電動車椅子での利用は難しいと感じた。</p> <p>○障害者差別解消法では合理的配慮の前提として環境整備が努力義務とされており、特に通年使用する校舎においては、児童生徒の快適な学校生活において必要不可欠である。</p> <p>○通学については保護者からスクールバスの乗車時間の長さや停留所の位置に関する相談が寄せられているとのこと、地理的制約が大きいことや、七ヶ宿発の利用が生じた場合、距離増や運行経路の再設計が不可避であることの説明があった。</p> <p>○以上、当方の視点としてバリアフリーについて重きを置いた。物理的な問題なので一朝一夕の解決は難しいと思うが、児童生徒や保護者にヒアリングしながら進めていただきたい。</p> <p>（2）その他</p> <p>○熊対策について質問させていただいた。学校側は学校敷地内での出没は確認されていないが、足跡はあり、注意喚起や自治体との連携、必要時の対応（駆除要請や迂回等）を検討することであった。また、鳥類の飛来なども含め、日常的な危険察知と即応体制の整備が課題との説明があった。</p> <p>○その後、県教育委員会より「県立学校におけるクマへの対応について」の文書が発出されたため、より具体的な対策を取られることを期待する。</p>		